第 44 回日本フィッション・トラック研究会実施報告

伊藤 久敏

第 44 回日本フィッション・トラック（FT）研究会は，ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会として，2019 年 11 月 27（水）～29（金）の三日間に亘り，岐阜県土岐市のセラトピア土岐にて開催されました．

今回は，日本原子力研究開発機構（JAEA）東濃地科学センターの末岡　茂氏を中心とした JAEA の方々の全面的な協力があり，これまでのものとは一味違った印象深いものとなりました．まず，末岡氏による周到な事前準備（1st Circular, 2nd Circular 等によるアナウンス etc）がありました．恐らくそのためもあり，今回は 67 名の参加，39 件の発表と FT 研究会始まって以来，ともに最大数を記録しました．発表会初日の午前には，瑞浪超深地層研究所立坑見学があり，20 名余りが 3 班に分かれて，地下 300 m の研究坑道の見学を行いました．同立坑は，近々埋め戻しが開始されるとのことで，貴重な見学の機会を得ることが出来ました．

発表会は，JAEA の年代測定研究に関するセッションで始まり，その後に通常のセッションが実施されました．セッションは FT が 1 つ，ESR が 2 つ，ルミネッセンスが 3 つ，U-Pb が 1 つ，という構成でした．FT のみの研究発表は数件のみと少ないものの，FT で特筆すべきこととして，FT 自動計測装置（Autoscan Systems 製 Trakscan Plus Professional）が，JAEA に導入されたことが紹介されました．JAEA の丹羽正和氏による「破砕帯の詳細な記載に基づく断層の発達史の復元：いくつかの事例紹介」と題した特別講演は，断層の年代測定研究を行う上で，示唆に富んだ内容であったと思われます．

二日目の夜には，セラトピア土岐二階の小ホールと称する大広間にて盛大に懇親会が行われました．広間の中央には豪華な食事が，奥には末岡氏厳選?の岐阜の銘酒が並べられ，和気あいあいと懇親を深めることができました．

三日目午前に発表会が終了し，午後は土岐地球年代学研究所のラボ見学会が実施され，約 30 名が参加しました．最近導入され，日本で唯一の(U-Th)/He 年代測定用の He 同位体比測定装置のほか，U-Pb 法等のための LA-ICP-MS 装置，ルミネッセンス・ESR 関係の装置，^{14}C や ^{10}Be 年代測定等に利用される加速器質量分析装置などを見学させて頂きました．

以上のように，今回は，入念に準備された国際会議に匹敵するような内容であったと思います．末岡氏はじめ JAEA の関係者の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます．なお，次回はルミネッセンス年代測定研究会の伊藤一充氏が世話役となり，つくばの産業技術総合研究所にて開催されることとなりました．

出席者（所属）：

天野　英樹（北電総合設計），網本　真奈（岡山理大），五十嵐　雄大（金沢大），石井　祐

次（産総研），石橋　梢（山形大），石丸　恒存（原子力機構），磯谷　舟佑（神戸大），伊藤　一充（産総研），伊藤　久敏（電中研），大平　寛人（島根大），岡　壽崇（原子力機構），小形　学（原子力機構），小北　康弘（原子力機構），小倉　一郎（極東貿易），小畑　直也（蒜山地質年代学研究所），甲斐　綾子（山口大），鏡味　沙耶（原子力機構），梶田　侑弥（京都大），雁沢　好博（石川県立大），菅野　瑞穂（原子力機構），菊地　悠斗（石川県立大），木田　梨沙子（名古屋大），國分　陽子（原子力機構），小島　慧吾（極東貿易），小林　侑生（京都大），小松　哲也（原子力機構），小山　博晃（金沢大），近藤　玲介（皇學館大），佐藤　李咲（石川県立大），下岡　順直（立正大），島田　愛子（JEOL），島田　耕史（原子力機構），清水　麻由子（原子力機構），新正　裕尚（東京経済大），末岡　茂（原子力機構），高田　将志（奈良女子大），田上　高広（京都大），舘　萌々子（岡山理大），田中　桐葉（東北大），谷　篤史（神戸大），田村　明弘（金沢大），田村　亨（産総研），檀原　徹（京都 FT），斗澤　皓正（原子力機構），戸髙　安曇（岡山理大），豊田　新（岡山理大），中嶋　徹（京都大，中西　利典（原子力機構），丹羽　正和（原子力機構），長谷部　徳子（金沢大），花室　孝広（原子力機構），林崎　涼（電中研），原之園　大一（岡山理大），日浦　祐樹（原子力機構），廣田　誠子（広島大），福田　将眞（京都大），藤原　泰誠（蒜山地質年代学研究所），水田　幸男（日本電子），水野　真衣（金沢大），蜜澤　岳（石川県立大），光安　優典（東北大），山田　隆二（防災研），山中　千博（大阪大），横山　立憲（原子力機構），横山　優花（神戸大），Gao Lei（産総研），Udaanjagal Uyangaa（金沢大）
（計 67 名，五十音順，敬称略）

第 44 回日本フィッション・トラック研究会総会実施報告

伊藤久敏

第 44 回日本フィッション・トラック（FT）研究会総会は，2019 年 11 月 28 日（木）17:10～17:40 にセラトピア土岐にて，以下の内容で実施されました．

1. 出席会員数の確認：　普通会員 16 名の出席と委任状 18 名分が得られたことから，普通会員（61 名）の 1/5 以上の出席および委任状をもって，総会は成立することを確認した．
2. 今年度の活動報告：　①FTNL 第 32 号は現在 4 件がアップロードされているが，今後 2 件アップロード予定であり，それをもって第 32 号とすることが承認された．第 32 号の印刷物については次号との合併号とする方向で調整することが承認された．②第 44 回 FT 研究会をセラトピア土岐にて開催した．③研究会の HP の更新状況を確認した．なお，次回以降，研究発表会のプログラム（案）も適宜 HP にアップすることとした．
3. 2018 年度の会計報告＆会計監査報告：　2018 年度の収入は 642,541 円，支出は 37,765 円であり，差額の 604,776 円を次年度に繰り越すことが報告され，監査報告とともに承認された．なお，第 44 回 FT 研究会の懇親会で発生した不足分は 2019 年度の予算で補填することとした．
4. 次年度の執行部体制：　次年度（2020 年度）の執行部は，今年度と同じ体制とすることが承認された．
5. 次年度の活動計画：　以下の活動計画が承認された．①FTNL 第 33 号は 2020 年 10 月発行に向けて活動する，②第 45 回 FT 研究会は ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会と合同で開催する，③Thermo2024 を日本に誘致するための準備（会場の確認ほか）を進める．

以下の計 18 名の方々からは総会に関わる委任状をいただきました．ご協力いただき，有難うございました．安間　了，猪又　竜，岩野英樹，北田奈緒子，白井香奈江，新正裕尚，檀原有吾，中里裕臣，西村　進，林　広樹，星　博幸，松浦秀治，三浦知督，三浦英樹，村松敏雄，森本祐一郎，山﨑誠子，渡邊公一郎（五十音順，敬称略）

FTニューレター投稿要領（２０１９年）

１．発刊は２０２０年１０月頃を予定していますが，Webサイトにおいて２０２０年５月頃から早期公開を行います.
２．原稿の締切りは，２０２０年６月末とします.

ただし，投稿される予定の方は早めに，掲載内容の種類（論説／総説／研究ノート／講演要旨／その他），タイトル，著者，刷り上り予定ページなどを編集委員（田村：aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp）までお知らせください.
またその都合によっては，〆切を延期することもあり得ますのでご相談ください.

論説／総説／研究ノートにつきましては，査読を行います.

３．投稿原稿（論説／総説／研究ノート／講演要旨／その他）のスタイルの詳細につきましては，次の通りとします.

・文体，句読点，引用文献形式等の詳細は，添付書類および過去のFTNLをご参考ください（投稿の際は段組の必要はありません）.

過去のFTNLの論文や講演要旨は以下からご覧いただけます.
http://ftrgj.org/index.html

タイトル・著者・所属は日本語および英語でお願いします.
・投稿原稿は，
テキスト（タイトル・著者・所属・本文・図のキャプションなど）：Word/Pages/RTF/TXTなど
＊＊＊「図表はWord/Pagesファイル中に挿入しないでください」
図表は、以下の通りとしますが必要ならばご相談ください.
図：PDF形式またはTIFF形式
表：PDF形式を推奨（TIFF形式やEXCELでも可）

＊テキストファイルとは必ず別にする
＊カラーが可能です.
＊サイズの目安，幅の上限
１段の場合、6.7cm、2.6inch、800pixel
２段の場合、15cm、5.9inch、1750pixel
以上の条件ではっきりと読むことができること

◯ 研究会の講演要旨（Proceedings, Extended abstractsなど）につきましては以下のようにします.
＊刷り上りページ数は４ページ（A４サイズ）を目処とします．それ以上の分量になりそうな場合は，できるだけ論説，総説あるいは研究ノートなどとしてご投稿ください.
＊提出していただいた原稿は，編集委員会で簡単な査読を行います．内容やレイアウトの変更を求める場合もありますので，予めご了承ください.
＊基本的には段組等レイアウトの必要はありませんが，希望するレイアウトがある場合はお送りいただけると幸いです.

原稿作成・編集作業等に関しまして，質問等ありましたら遠慮なくどうぞ.

フィッション・トラック ニュースレター 投稿規定 (1997年8月1日改正, 2013年4月1日一部改正)

総則

(1) 本会会員または本会会員に紹介された非会員はニュースレターに投稿することができる.

(2) 原稿は編集委員会に提出するものとし，編集委員会は受け取った原稿の受付年月日を記録し，原稿を保管する.

(3) 編集委員会は必要に応じて，会員または非会員に原稿の査読を依頼し，また著者に修正を求めることができる.

(4) ニュースレターに掲載の著作物の著作権は本会に帰属する.

細則

(1) 掲載内容はフィッション・トラックに関連する幅広い分野を対象とする.

(2) 掲載内容の種類を以下の通りとする.

(a) 論説: オリジナルな研究論文で内容の主要な部分が学術論文として, 他に印刷発表されていないもの.

(b) 総説: ある分野に関して既存論文や学説などを総括・解説したもの.

(c) 研究ノート: 技術, 手法, 術語などについての報告または紹介.

(d) 日本フィッション・トラック研究会が開催・主催・共催した講演会などにおける講演内容をまとめたもの（Proceedings, Extended abstractsなど）.

(e) その他必要と思われるもの.

(3) 論説・総説・研究ノートに関しては, 複数の専門家による査読を行う.

(4) 原稿の書き方・提出方法・刷り上がりページ数の制限などについては, 別途定める.

FTNL編集委員
金沢大学　田村明弘 (email: aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp)